

新規設定の5年ぶり低水準は、つみたてNISAやiDecoによる顧客本位の表れ？ 3月は日本株とグローバル株、そしてアセットアロケーション柔軟型が人気！

商品企画部 松尾 健治  
窪田 真美

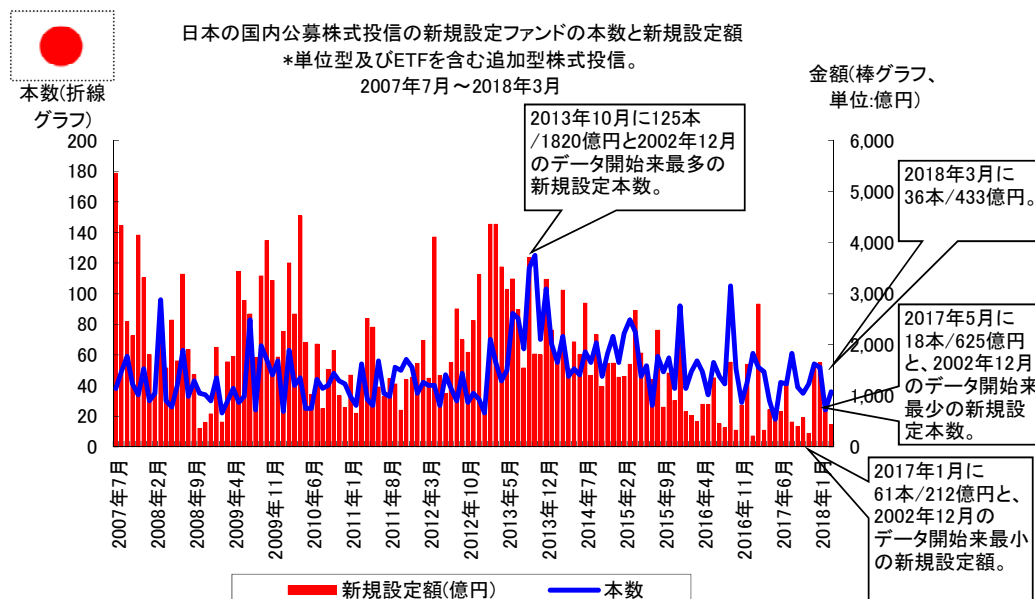
※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

新規設定の5年ぶり低水準は、つみたてNISAやiDecoによる顧客本位の表れ？

2018年4月4日(水)付日本経済新聞朝刊が「投信、長期運用シフト 新規設定5年ぶり低水準 安定収益で顧客本位に」と言う見出しで次の通り報じていた(URLは後述[参考ホームページ]①参照)。 その一部を引用する。

「投資信託の新規設定数が減少している。2017年度に新規に設定されたのは460本強と前年度比で1割強減少し、5年ぶりの低い水準にとどまった。…(略)…。大幅減となったのは運用会社や販売会社がビジネスの手法を見直したことが大きい。これまでは新規の投信を相次ぎ立ち上げて、顧客に乗り換えを促しながら販売手数料を稼いできた。だが、金融庁から『顧客本位の営業になっていない』といった批判を受けた。長期運用に適した主力の『旗艦投信』に経営資源を集め、運用残高を積み上げながら安定的に収益をあげる戦略へのシフトが進んでいる。制度面から長期投資を促す環境も整ってきた。17年1月には個人型の確定拠出年金(iDeco)の対象者が主婦や公務員にも拡大され、18年からは積み立て方式の少額投資非課税制度(つみたてNISA)がスタートした。長期の積み立て投資に向くとされる指数連動型を中心に、既存投信の運用コストを引き下げ、資金の取り込みを狙う動きも目立った。」――。

上記の記事は年度で集計した新ファンド本数である。月毎で見るとどうであろう？ 下記グラフの示す通り、2018年3月の新ファンド数は36本と、前月2月(24本)の1.5倍、データ開始以来最も少なかった2017年5月(18本)の2倍と、足元も増えている。また過去の3月と比べても、2003年の26本や、2009年の30本を上回る。下記は過去10年強の新ファンド本数と新規設定額の推移だが、本数では2018年と同じ様な水準が過去2011年頃などにもあり、どちらかと言うと、2018年は、本数に比べて新規設定額が低位にとどまっている様だ。

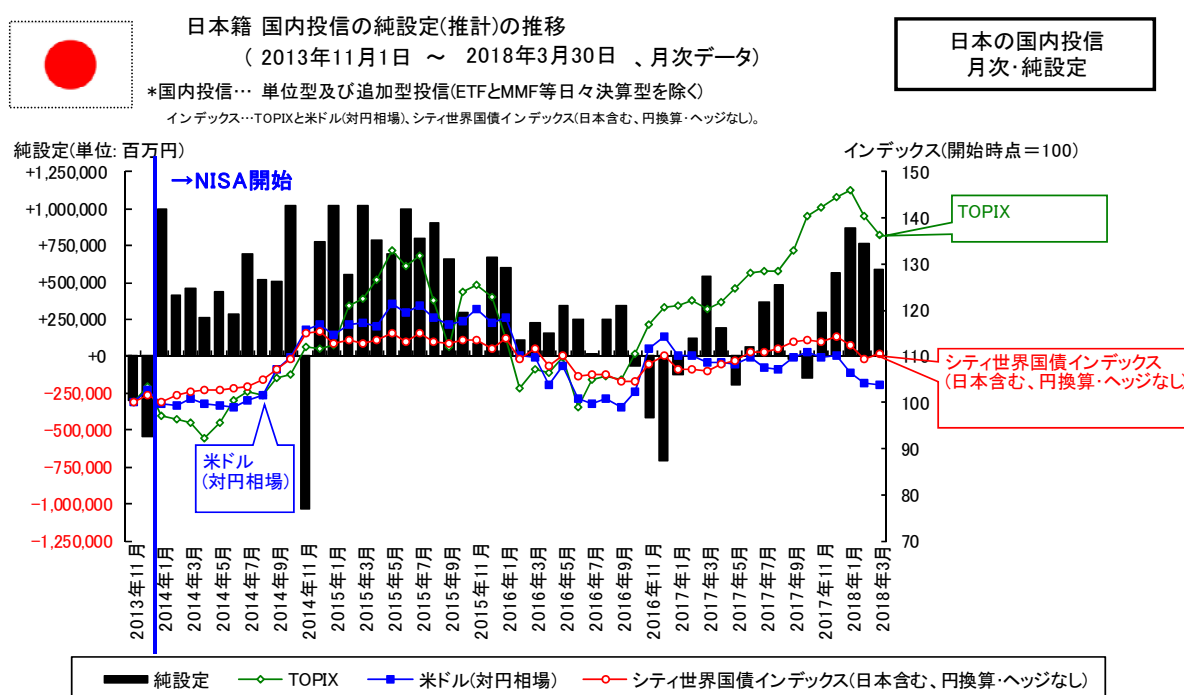


(出所: 投資信託協会、Lipper、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

## 商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人は NISA の最新動向を参考にしてほしい： NISA 既存投資家の人気は日本株やグローバル株

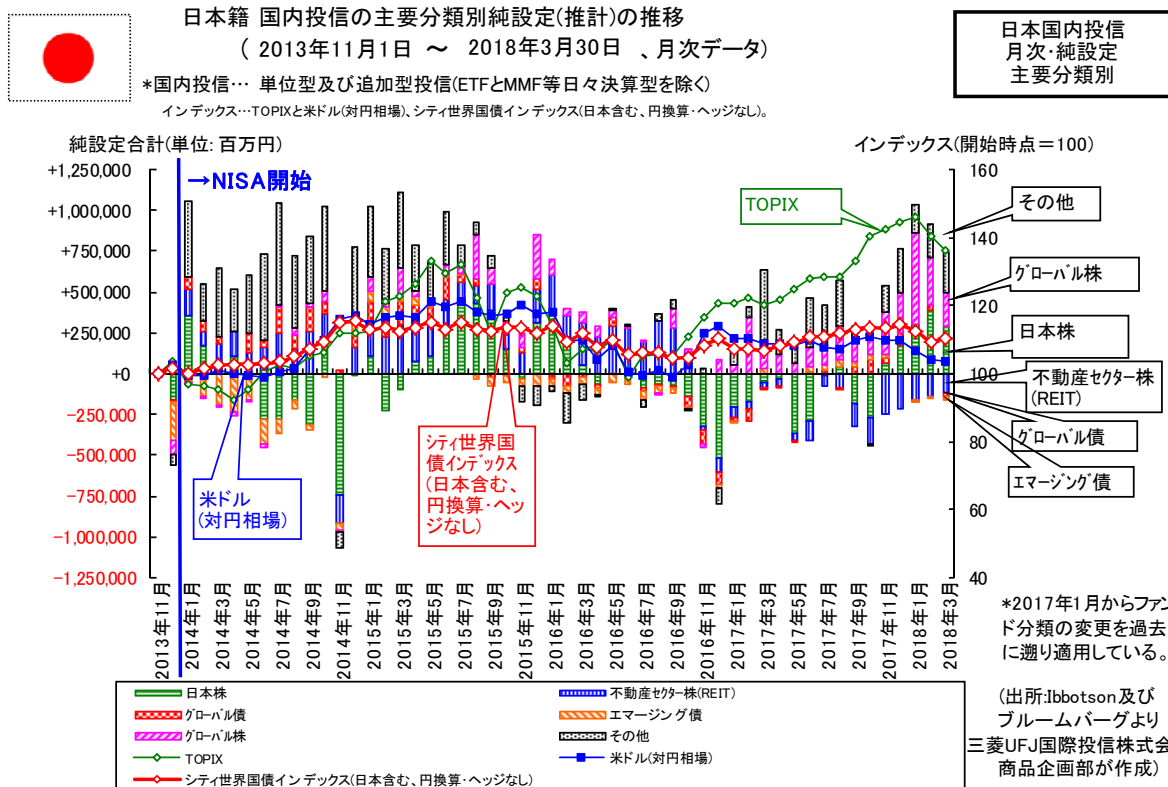
新ファンドではなく、既存ファンドから NISA で投資する商品を選ぶとなると、つみたて NISA の対象商品だけでも 140 本を超え、種類が多く選択に迷う人は確かに多いと思う。ぜひここは、NISA の最新動向を参考にしてほしいものである。投資家を既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分け、既存投資家は投信全体の動向で代替、投資の未経験者層(新規投資家)は NISA 向けファンド(後述※1 参照)で代替する。

まず **NISA の既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)は 2018 年 3 月に+5932 億円と、5 カ月連続の資金純流入となり、過去 1 年間で 3 番目に大きな純流入**。この 2018 年 3 月の既存投資家の純設定を、投資対象(主要分類)別で見る。



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

**2018 年 3 月に最も純設定の大きかったのは日本株(前月 2 月も 1 位)、次いでグローバル株(前月 2 月も 2 位)、日本債(同 14 位)、アセットアロケーション柔軟型(同 3 位)、アセットアロケーション慎重型(同 6 位)だった(下記グラフ参照 \*主要分類…モーニングスターによる分類で 2017 年 12 月末の純資産の大きい上位 5 分類。日本債およびアロケーション型は「その他」に含まれる)。**

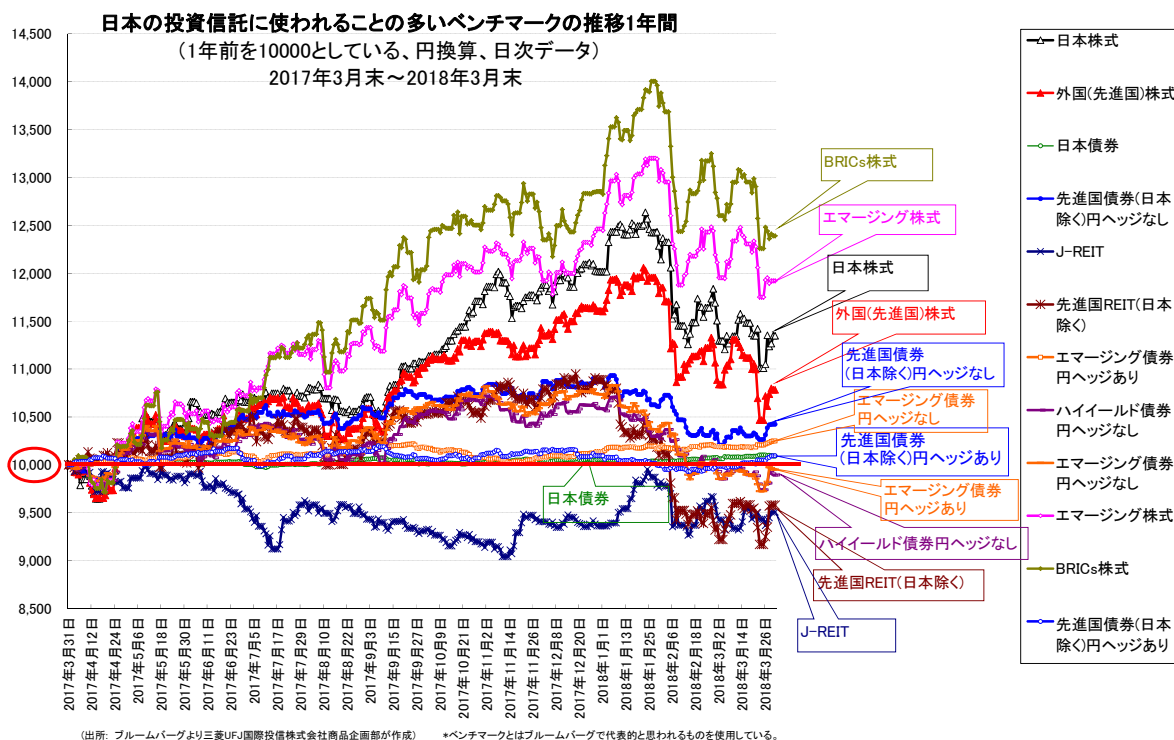


昨年 2017年(1月~12月)で最大の純設定はグローバル株、次いで、アセットアロケーション柔軟型、インド株だったが、グローバル株とアセットアロケーション柔軟型については2018年も流れが継続中である。投信全体で、3月に純設定が最も大きかった日本株は、昨年2017年11月から純流入へ転じ、前月2018年2月にグローバル株を上回る加速で、3月は+2943億円と、5カ月連続の純流入。年間では2017年の約1.2兆円という純流出から、2018年は既に3月までに約1兆円の純流入となっている。

前月に引き続き2番目に純設定の大きかったグローバル株は、2017年頃から純流入が増加、昨年は年間約2兆円という純流入だったが、2018年は3月までに約1.1兆円と、1年4カ月連続で純流入が続いている。

2017年の年間でグローバル株に次いで純設定の大きかったアセットアロケーション柔軟型だが、2018年3月は+751億円と16カ月連続の純流入である。

日本の投信の純設定とパフォーマンスの関係はどうだろうか？日本の投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見た所、次頁グラフの通り、1年のパフォーマンスの好い順に、BRICs株式、エマージング株式、日本株式、先進国株式、先進国債券円ヘッジなし、エマージング債券円ヘッジあり、先進国債券円ヘッジありとなっている(\*1年前を10000、円換算、日次データ)。



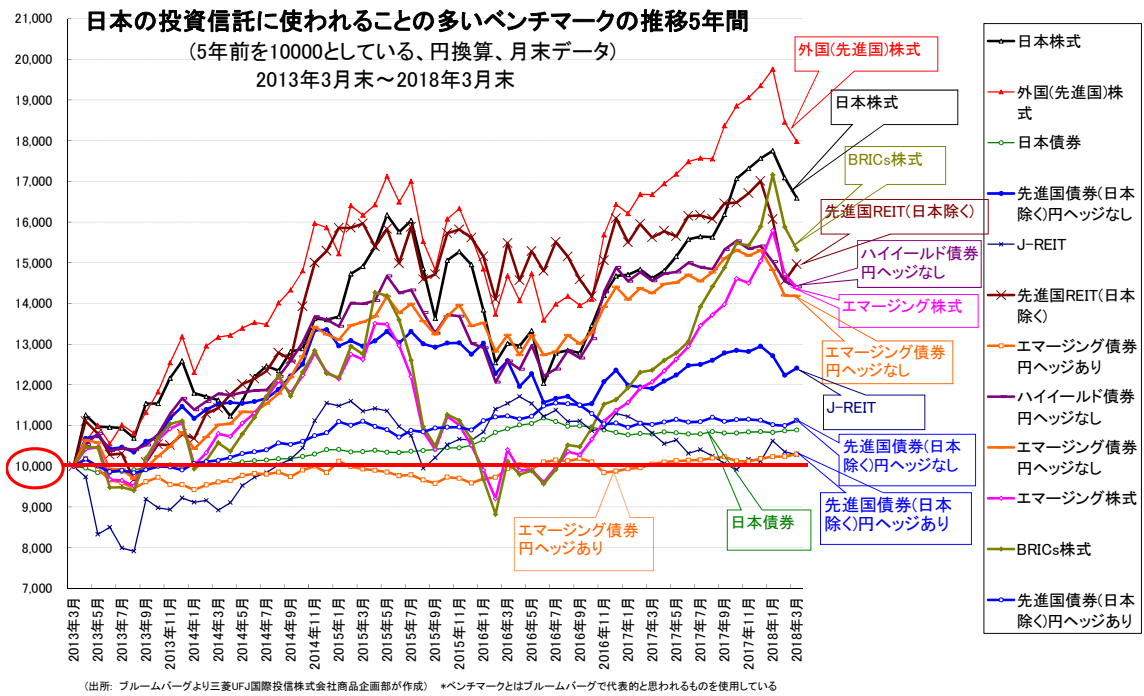
日本株のパフォーマンスは1年で見れば、上記グラフのベンチマークで3番目に好く(最も良いのがBRICs株式、次いでエマージング株式)、5年で2番目に良かった(最も良いのが先進国株式)が、2018年3月の1カ月では下から2番目だった(BRICs株式が最低)。BRICs株式やエマージング株式のパフォーマンスは2017年9月末からの半年、1年、3年で見れば好いが、2018年3月の1カ月では他のベンチマークに大きく劣後している(BRICs株式は最低、エマージング株式は下から4番目)。

「過去1年では、インド株式を投資対象とする投信がけん引役となり、中国やアジア全般を投資対象とする投信に人気が広がりつつある。」(2018年3月29日付日本経済新聞夕刊(URLは後述[参考ホームページ]②参照)とされるが、こうした中長期パフォーマンスの好きが背景にある様にも見える。

次頁グラフは以上の5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国株式、日本株式、BRICs株式、先進国REIT、ハイイールド債円ヘッジなし、エマージング株式となっている(\*5年前を10000、円換算、月末データ)。

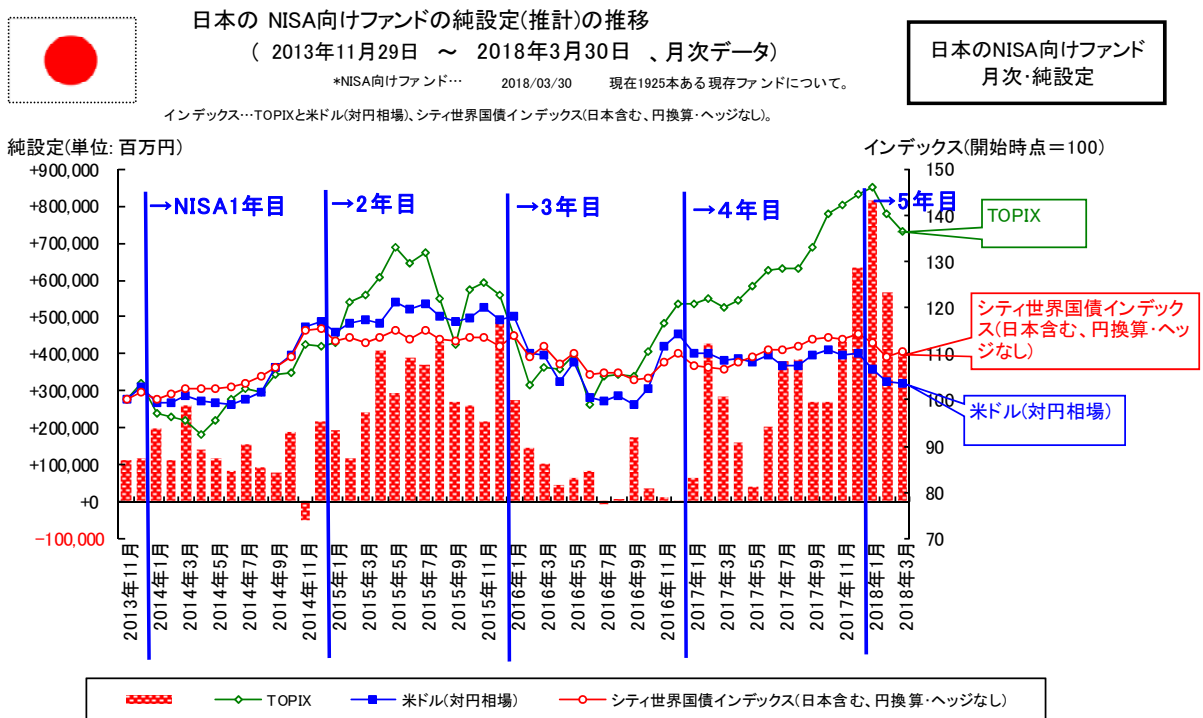
先進国株式のパフォーマンスは5年では次頁グラフのベンチマーク中、最も好く、1年、3年では4番目に良かったが、2018年3月の1カ月で見ると下から3番目だった。





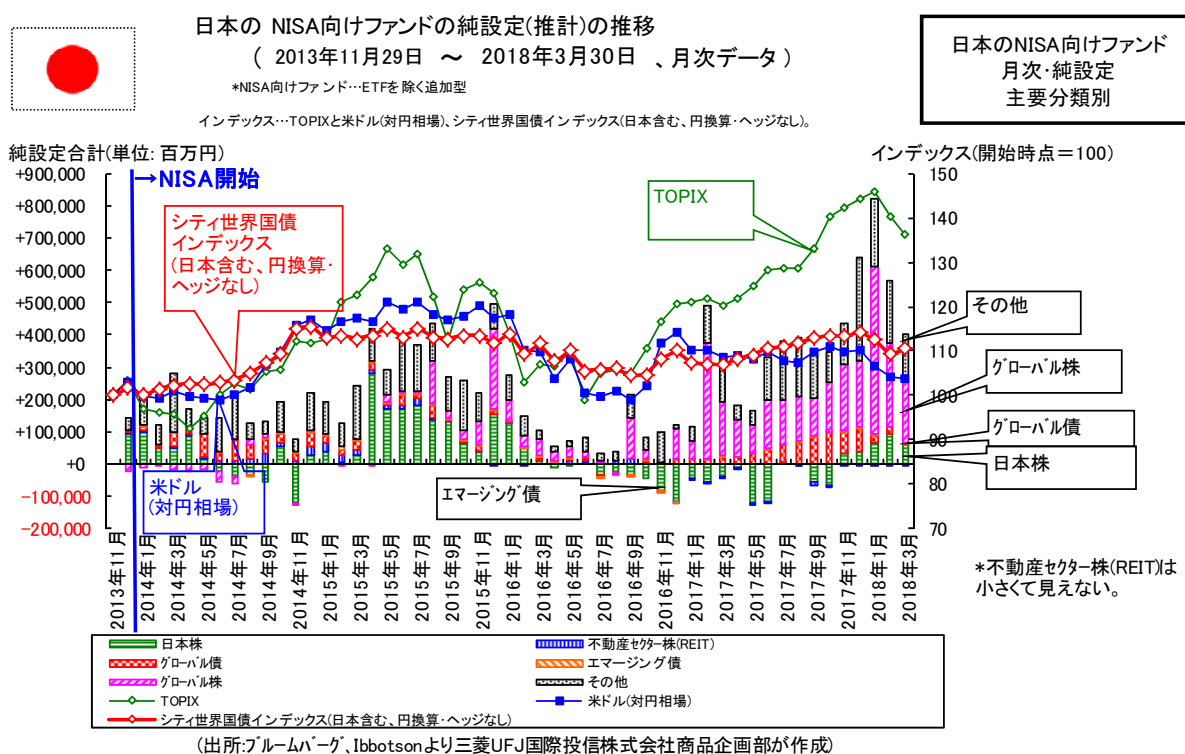
## 商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人は NISA の最新動向を参考にしてほしい: NISA 向けファンドの人気はグローバル株やアセットアロケーション、日本株など

次に新規投資家を示す NISA 向けファンド(後述※1 参照)の純設定を見る。 **NISA 向けファンドの純設定は、最新 2018 年 3 月に+3986 億円と、1 年 3 カ月連続の純流入。** NISA 投資の始まった 2014 年 1 月以来最大の純設定となった 2018 年 1 月(+8119 億円)から半減しているが、**昨年 2017 年の月平均(+2948 億円)を上回る。**



※1: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(\*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ]③参照)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(\*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013年4月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単体型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(\*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2018年3月31日時点で1925本となった。

このNISA 向けファンドを投資対象(主要分類)別で見ると、**2018年3月の純設定1位はグローバル株(前年2017年10月から6ヶ月連続1位)、2位はアセットアロケーション柔軟型(前月2月3位)、3位は日本株(前月2月2位)、4位はその他オルタナティブ(前月2月も4位)、5位は中国株(前月2月7位)だった**(下記グラフ参照。\*主要分類…モーニングスターによる分類で2017年12月末の純資産の大きい上位5分類。アセットアロケーション型とその他オルタナティブと中国株は「その他」に含まれる)。



**グローバル株やアセットアロケーション柔軟型は前年からの好調な純流入が継続中だ。2018年の年初来でも、純設定1位、2位となっている。日本株は5カ月連続の純流入。**

2018年3月に純設定最大だったグローバル株だが、3月は+1900億円と、NISA導入以来、最大の純流入となった2018年1月(+5204億円)からは鈍化。2番目に純設定の大きかったアセットアロケーション柔軟型は前月とほぼ同水準の純流入で、NISA導入以降4年3カ月、連続純流入と、安定的な資金純流入が続いている。3番

目に純設定の大きかった日本株は+580 億円と、2016 年 1 月以来 2 年 1 カ月ぶりの大きな純流入となった前月 2 月(+941 億)から鈍化(←2018 年 1 月+667 億円←2017 年 12 月+364 億円←2017 年 11 月+283 億円)。

日本株だが、2018 年に始まった「つみたて NISA」の対象投信でも、3 月は前月に引き続き日本株ファンドに人気  
が集中していた。純設定上位 10 本の内、6 本が日本株ファンド(うち 4 本が日経 225 型インデックスファンド)、  
次いでグローバル株ファンド、アロケーション型であった(「つみたて NISA」以外で購入された分も含む推計、ETF  
を除く)。

以上、既存投資家(投信全体)でも、「投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層」(投資信託協会～URL は後  
述[参考ホームページ]④参照)を中心とする新規投資家(NISA 向けファンド)でも、2018 年 3 月は日本株とグロー  
バル株、そしてアセットアロケーション柔軟型が人気と言えそうである。今後を示すものではないが、こうした情報  
が「商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人」(投資信託協会～URL は後述[参考ホームページ]⑤参照)が多い  
と思われる NISA 等を検討する投資家の参考になれば幸いである。

以 上

#### [参考ホームページ]

- ①2018 年 4 月 4 日(水)付日本経済新聞朝刊「投信、長期運用シフト 新規設定 5 年ぶり低水準 安定収益で顧客  
本位に」…「 <https://r.nikkei.com/article/DGKKZ028943070T00C18A4EE9000?type=my#AAAUAgAAMA> 」、
- ②2018 年 3 月 29 日付日本経済新聞夕刊「新興国株式型、残高 4 兆円超 けん引役はインド株」…  
「 <https://r.nikkei.com/article/DGKKZ028726480Z20C18A3EN1000?type=my#AAAUgjqwMA> 」、
- ③2014 年 1 月 8 日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「 <http://www.toushin.or.jp/mailmag/> 」、
- ④2013 年 11 月 21 日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…  
「 <http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/> 」。
- ⑤2018 年 3 月 7 日(水)付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2017 年」…  
「 <https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2017/> 」、

三菱 UFJ 国際投信【投信調査コラム】日本版 ISA の道 バックナンバー…「 <https://www.am.mufj.jp/market/report/investigate.html> 」。

#### 本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合があります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

#### 本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。